

式 辞

春の風が日ごとに暖かさを増し、穏やかに桜の花びらが舞う今日のよき日、PTA 会長 九鬼 隆様をはじめ多数の御来賓、保護者の皆さまのご臨席のもと、令和6年度愛媛県立松山南高等学校全日制課程の入学式をかくも盛大に挙行できますことは、我々教職員一同このうえない喜びであり、心より感謝を申し上げます。

さて、ただいま入学を許可いたしました360名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、今日から始まる南高での生活に、さぞかし胸が高鳴っていることでしょう。松山南高校は、皆さんの成長を促す鍛錬の場となるよう、さまざまな仕掛けを用意して皆さんを迎えます。一緒にワクワクしましょう。

一方で、皆さんの中には、周りの人が自分より優秀に見えて、気後れしたり不安に思ったりする人もあるかもしれません。

しかし、案ずることはありません。

まず、何より皆さんに伝えたいのは、皆さんにとって、同級生も、上級生も、単に競うべき相手なのではなく、教職員も含め、互いに切磋琢磨することで一人ひとりをさらなる高みへと導く「仲間」だということです。

本当に勝たなければならない相手は周囲の人々ではありません。打ち克つべき相手、それは自分です。勉強にしても、部活動にしても、昨日までの自分を乗り越えるという意識が大切です。もしあるとき、自分との戦いに負けることがあっても、次に勝てばよいのです。大丈夫です。勝負の機会は毎日訪れます。そして、今までの自分を乗り越えることができたとき、それまでの失敗の経験は、成長のために必然な経験へと変わります。過去に起こった事実を変えることはできませんが、今を変えることができれば、未来が変わることはもちろん、過去の出来事の意味を変えることもできるのです。ただ、自分という敵はかなり手強い。心してかかりましょう。

しかも現代は、多くの場面で正解が一つではない社会です。皆さんは、否応なしにそのような社会を生きなければなりません。絶対解が見つからないのはとても苦しいものですが、皆さんには、安易に「一見分かりやすい解」に飛びつかないようにしてほしいと思います。精神科医で作家の帚木蓬生さんがおっしゃるように、簡単に一つの答えが出ないような問題に対して、安易に「分かったつもり」になってしまえば、理解が深まらず、低い次元の理解にとどまってしまうか、場合によっては、誤った理解に陥ってしまうという恐れもあります。分からない問題を、分からないまま保持し続ける力、不確実で曖昧な状態を受け入れ、その状態にとどまる能力、いわゆるネガティブ・ケイパビリティを皆さんには身に付けてほしい。哲学者の鷲田清一さんがおっしゃるところの、「ちょうどプールの中、潜水で向こう側まで泳ぎ続けるような知的な肺活量」を身に付けてほしいと思います。

本当の自信とは、他人と比べることでは得られるものではありません。自分が今できることを精いっぱいやり切ることができることによつてのみ得られます。苦しい水の中、向こう岸を目指して、もがけばもがくほど、今の自分には知らないことがあること、今の自分には届かないものがあることに気付かされます。できることを精いっぱいやり、自信が持てるようになると、他者の価値を認め、他者の存在を尊重するようになり、謙虚になるのはこのためです。寛容の精神は教養を身に付けることによつて養われると言えるかもしれません。

苦しい状態に耐えながら、自分という敵と戦うには強い意志が必要です。

皆さんを奮い立たせる言葉が、本日から南高生となった皆さんの一番近くにあります。

「自らを律せよ」それが、本校の校訓です。

創立以来133年目を迎え、数多の輝かしい歴史を誇る本校ですが、先輩たちもこの言葉を胸に刻みながら高校生活を送りました。自らを律するということは、過去から変わらぬ大変奥深いテーマです。あらゆる分野で社会に貢献する高い志を持つリーダーへと育てゆく皆さんにとって、もっともふさわしい校訓です。

最後になりましたが、保護者の皆さま、本日は誠におめでとうございます。

今日の晴れの日を迎えられましたのは、まずは新入生一人ひとりの努力によるものですが、これまでそれを支えてこられました保護者の皆さまの深い愛情に心から敬意を表しますとともに、皆さま方の本日の感慨も一人のこととお喜び申し上げます。私たち教職員一同、全ての新入生を心から歓迎するとともに、大切な生徒をお預かりする責任の重さを改めて感じているところでございます。私たちは、生徒たちを全力で応援し、また鍛えます。そして、卒業の際には、変化が激しく予測が難しい時代にあっても、不測の事態に動じることなく自らの発想と力で課題を乗り越え、社会の良き創り手として貢献できるたくましい若者として、皆さまのもとへお返ししようと思っております。どうか、本校の教育活動にご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、心地よい春風に祝福されて始まる新入生の皆さんが南高で過ごす毎日が、それぞれの個性や才能を存分に伸ばし、ひとまわり大きな人間へと成長させる日々になることを切に願って、式辞といたします。

令和6年4月8日

愛媛県立松山南高等学校長 島瀬 省吾